

東北農林専門職大学（仮称）を活用した農林業のデジタル実装研究・研修拠点整備事業

背景及び課題

- ・ 気象災害等により収量や品質の低下が発生し、高額の農業被害による収益の圧迫や、担い手の減少・高齢化等の生産基盤の弱体化による気象災害等への対応力の減退、ほ場、森林等の管理人員の不足による生産量の頭打ちないし低下等の様々な課題に直面

事業の目的

- ・ 地域課題の解決に向けた研究や実践により、多彩な農林産物を生産する我が国屈指の農林業基地としての東北の地位をさらに高め、本県を含む東北地方の農林業における生産性の向上及び都市部と遜色ない収入水準の確保等に寄与

事業内容

- ・ 農林業のデジタル実装研究・研修拠点を整備し、地域や産学官が一体となり、デジタル技術を活用した農林業発のローカルイノベーション、生産性向上による農林業分野の働き方改革に資する研究及びそれを活用できる人材教育に取り組むプロジェクトを一体的に展開
(詳細は次頁)

得られる成果等

- ・ 現場の普及や地域課題の解決に資する研究等を担い、地域活性化に貢献

【協力いただきたいこと】

- ・ 企業版ふるさと納税等を活用した寄附のご支援
- ・ 農林業の現場や地域課題解決に資する研究の支援・協力

【企業のメリット】

- ・ 寄附額に応じ、感謝状の進呈や大学キャンパスへの企業名等の掲示
- ・ ESG投資市場における企業のプレゼンス向上

寄附をするメリット等



【連絡先】

山形県農林水産部農政企画課
専門職大学整備推進室
TEL:023-630-2480
E-mail: taf-u@pref.yamagata.jp

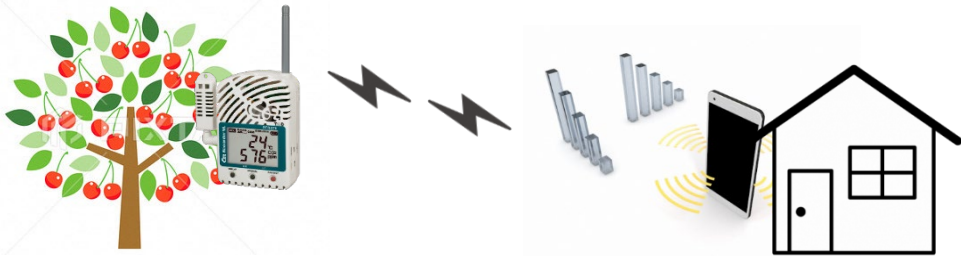
東北農林専門職大学（仮称）を活用した農林業のデジタル実装研究・研修拠点整備事業

■気候変動対応型農業研究・研修センター（令和4年度整備）

■大雨（病害）、異常低温（霜害）等による気象災害の激甚化に対応するため、ICT技術やGIS機能を駆使した研究・研修が必要。

⇒離れた園地でも適切な防霜対策を実施できる外気温や湿度等のモニタリングシステムの開発や実習等

⇒整備内容：研究・研修センター、受信サーバ、屋外気象モニタリング装置、タブレット等



■スマート畜産研究・研修センター（令和5年度整備）

■デジタル技術で目に見えない家畜の体調変化を早期に発見し、事故や疾病を未然防止する研究・研修が必要。

⇒牛の体内にセンサーを投入し胃液pHを測定し、無線で送信するシステムの実習等

⇒整備内容：研究・研修センター、受信サーバ、生体用無線伝送pHセンサー、タブレット等



■スマート農業研究・研修センター（令和5年度整備）

■大規模化する水稲経営に向けたドローン等を利用した栽培技術や、次世代型施設園芸に関する研究・研修が必要。

⇒ドローンを利用した葉色診断や施肥管理による良食味栽培等のスマート稲作技術や、統合型環境制御システムを装備した次世代施設園芸の実習等

⇒整備内容：研究・研修センター、受信サーバ、環境モニタリング装置、ドローン、タブレット等



■スマート森林業研究・研修センター（令和5年度整備）

■デジタル技術を活用した、川上（原木生産者）と川中（木材加工業者）の迅速な情報共有による、効率的な原木・木材の産出システムの実用化に向けた研究・研修が必要。

⇒森林と研究・研修センターをオンラインで結び、出材側の生産情報と製材側の需給情報（材積及び規格等）をリアルタイムで共有することにより、双方の生産管理を効率化する実習等

⇒整備内容：研究・研修センター、ドローン、受信サーバ、タブレット、木材加工機械 等



出材量の見える化